



Visions 2025



Making of Visions

私たちの活動と学び

跡見学園女子大学文学部現代文化表現学科
ライティング特殊演習（編集）

1 ガイダンス／チーム分け [4/15]

○ガイダンスと自己紹介の後、編集チームと広報チームの2チームをつくる。

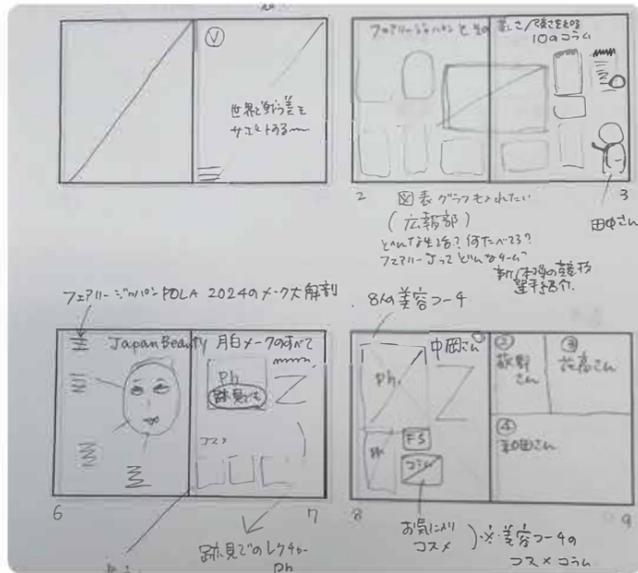
高校生の時からやりたい授業だったから、いよいよ始まるんだ!と緊張した反面、嬉しかった。(伊藤)

自己紹介から、おしゃれな人しかなくて緊張してた。面白そうと思って入ったけど、めっちゃ大変そうで一年間の苦勞を覚悟した。広報部と編集部、悩んだ末に広報部に入った! SNS運用楽しみ…!(本田)

OCやパンフレットで楽しそうだなと思ってとって来た! 抽選だったけど受かってめっちゃ嬉しい! 思ったよりも人数多くて自己紹介緊張した!(渡邊)

2 編集会議・広報会議 [4/22]

- 巻頭コラムやアンケートページの企画、広報企画などを決める編集会議・広報会議。
- デザイナー連絡担当、カメラマン連絡担当、ポーラ社連絡担当を選出。
- フェアリー ジャパン POLA やポーラについての下取材。



やりたいこと決めたり、みんなの意見が聞けて面白かった。今週からSNS運用…!めっちゃ緊張した。でもめっちゃ楽しい! どうやったらバズるか考えるの好き(本田)

広報選んだけど初めてできたらしくて何から始めればいいのか分からず困惑! だけど、選択肢が無敵大でわくわくする! リーダーやるって立候補したけど、上手く務まるか不安でいっぱいだった。(渡邊)



3 オリエンテーション／メイク実演 [4/29]

- ポーラ広報・山村実香さんによるポーラの活動についてのご説明。
- 美容コーチ・中岡弘喜さんによるフェアリー ジャパン POLA 団体メイクの実演。



ポーラさんのオリエンテーション。これは取材の第一歩! 実演は半顔だけのメイクだったけど、素颜とは全然違って「すげ〜!」って感じだった。みんなの質問が鋭すぎて質問するの怖かった…(本田)

ポーラの方と実際に会って取材することができた! 取材対象の方と会ってお話ができるなんて、滅多にない機会でもとても恵まれていると感じた。メイクをしている姿を見て、メイクの素晴らしさや、変化が大きく出ることにも感動した。とても良い経験になった。(渡邊)

4 台割確定／担当ページ決定 [5/13]

○台割を確定し、誰がどのページを担当するかを決定。



今日どのページを担当するか決めた。色々やりたいページがあって迷ったが、やっぱり取材を体験してみたかったこと、メイクと衣装という内容が面白そうだったため、P17の衣装のページを希望した。同じ担当になった人に迷惑をかけないように一生懸命頑張りたい。(渡邊)

5 デザイン打合せ準備 —サムネイル作成 [5/20]

- デザイナーとの打合せの準備として、企画内容がわかるサムネイルを作成。
- 見出し、リード、小見出し、本文、画像など、誌面を構成する必要要素を入れ込む。



今日はサムネイルを先生とメンバーで話し合った。サムネイルを考える際に見やすさやわかりやすさ、レイアウトの綺麗に見える配置など考えたが、必要要素を漏れなく伝えることが重要だと理解した。まだ編集の序盤の時点で焦りを感じた。一から生み出すことの難しさを改めて実感したと同時に今世の中に出ている雑誌や本の大変さを知ってもっと大事にゆっくり読もうと考えた。
(渡邊)

6 デザイン打合せ [5/27]

- デザイナー・岡本一宣さんの事務所に伺い、デザインの打合せを行う。
- 企画の説明をして、ビジュアルのアイデアとアドバイスをいただく。



デザイン事務所に入った瞬間、想像以上に緊張感のある空間だったので驚きました。ですが同時に、いよいよ制作に入っていきんだと強く実感しました。プロの方と雑誌作りをさせていただけるのはとても貴重な経験になると思うので、できる限り多くの学びを吸収したいです。
(伊藤)



サムネイルを完成させるまで何回もやり直して、時間使ってギリギリに間に合わせたので、まず提出できる安心感と、不安感が同時に襲ってきて心臓バクバクでした。事務所に入ると The プロという空気感と気圧が伝わってきて肌がビリビリしました、ほかの人たちは順調に進んでいる印象だったけれど、私たちは、岡本さんへの説明が上手く出来ませんでした。また、私たちのページは、他のページとはレイアウトが違うので、全面的にサムネイルを見直すことになって正直心が折れそうでした。先生が一生懸命フォロー＆解説を下さって申し訳ない気持ちと、尊敬の気持ちが込み上げていました。打合せのあと、広報インスタ担当で今後について作戦会議をしたことで少しずつ方針が決まりました！これからどんどん忙しくなってキャパオーバーになるけど、最後まで走りきるために頑張ります！
(渡邊)

7 取材準備 —取材アポイントメントをとる/インタビュー準備

取材の練習/お礼状の準備 [6月]

- 取材依頼メールを作成。
- インタビューの質問を用意→何度も直す。
- 取材の練習。
- 取材後にお礼状(お礼メール)を出せるように準備。
- 自分の連絡先を書いた名刺を用意し、名刺交換の練習。



アポメールはググればテンプレートがざざざ出てくるわけだが、相手への気遣いをそこにとどこまで盛り込めるかが鍵になりそうと思った。取材の練習は、見るだけでもかなり勉強になる。先生が仰った「一問一答形式にしない」「プレゼンにならないようにすべし」「その人にしか語れないことを語ってもらう」というアドバイスはかなり刺さった。会話を上手く広げながら相手の話を引き出せねばならない。取材というものを正直紙めてかかっていた自身を大いに恥じることとなる講義だった。
(I.C.)

8 カメラマンとの打合せ [6/10]

- プロカメラマン・奥村暢欣さんと撮影の打合せ。毎年 Visions の撮影をして下さっている奥村さんから取材についてのアドバイスもいただく。



奥村さんが仰っていた通りポーラ様や体操協会への取材をする際には「私たちが取材をさせていただく」立場であること、「先方の貴重なお時間を頂いている」ことを念頭に、どのように撮影するのか、どのような取材を行うのかを予め完璧に近い状態にまとめておくことが重要であると再認識した。そして、取材までに事前準備として相手のことについて調べておくべきことや、質問する内容をしっかり再考すべきだ。
(長谷川)

9 表4撮影 [6/24]

- Visionsをつくった34人の写真を学生・伊藤碧さんが撮影。



今日は母校訪問の動画を見たあと、裏表紙用の撮影を行った。みんなポーズに迷っていたが、とても個性豊かだったので撮っていてとても楽しかった。カメラマンという職業にも少し興味があり、Visionsを履修するにあたって、カメラマンという職業に触れることも一つの目標だったので、今回撮影を担当させてもらってVisionsでしかできない体験ができた。
(伊藤)

取材 —取材をした感想と、これから取材に行く人へのアドバイス—
[6～7月]

○Visionsでは、一人で一人を取材する。みんな当日はガチガチに緊張している。



6/24 チャコット

金原史枝さん・井関 舞さん・森田美由希さん取材

- ・自分たちが事前に調べたことと事実との相違点があって、確認するって大事だになって思った。
- ・衣装を実際に見て、手に取ったら意外と重かったり、生地が写真から想像したのと触ってみたのでは結構違った。
- ・間があくのが怖くて「質問しなきゃ…！」と頭がパニックだった。
- ・でもチャコットの方々は優しく、待ってくれたり、一つの質問を広げてくれたり、プロなんだと感じた。

(本田)



7/1 ポーラ 及川美紀社長取材

実際に本社に行ったり、名刺を渡したり、社長にお会いしたり、全て初めてだったので直前までとんでもなく緊張していました。でもこれはもしかすると今後二度とない機会かもしれないと感じたのでなんとか全力で自分なりに頑張りました。途中うまく自分の言葉が出てこなかったり、スムーズにいかない場面もありましたが、これも1つの経験として消化しようと思います。私はとても緊張しましたが、ポーラの方は皆さん優しくて気さくな方でした。これから取材する人は、あまり気負いすぎなくて良いと思います！

○挨拶は重要！

第一印象はとても大事だと思います。笑顔ではっきりと大学名、名前を言うようにすると良いです。

○取材内容を記載した紙を用意しておく！

相手も質問に答えながらどのような流れかを把握できるため、自分と相手の分を用意して取材開始前にお渡しすると良いと思います。

○取材目的、『Visions』の説明は手短に！

大事な部分にはなりますが、最初が緊張などもあり長くなりがちだと感じたので伝えたいところを端的に説明するのが良いと思います。

○大体の時間の配分をしておく！

時間は限られているため、1つの質問ばかりで「これ聞けなかった」とならないように大体の時間の配分を頭の中で考えておくが良いと思います。

○自分の考えや経験も交えながら！

答えてくださったことに「ありがとうございます」で次に行くのではなく、そこから更にキーワードを拾って質問したり、答えを聞いて自分は思ったかななどを話すとそこからさらに話が進んだり、幅が広がると感じました。
→苦戦しました😓

○取材相手にしか話せないことを聞く！

調べたら出てくることは事前に調べて確認程度にし、相手にしか話せないことをどんどん聞くのが良いと思います。思い切ってなんでも発言してしまっても大丈夫なのは感じました。

(吉川)



7/1 ポーラ 中岡弘喜さん（美容コーチ）取材

●場所によっては部屋に時計が無いので、腕時計や時間が確認できる物があると良いです。

●名刺は3枚は持ってて欲しいです。（字の綺麗さを結構見られたので丁寧！笑）

●私は、取材→アンケート→写真撮影でした。アンケート中に自分が聞き忘れたことや伝え忘れたことを確認できたので、メモは取材中にある程度とった方が良いと思います！録音に頼りすぎないのも大事かと！質問を大まかにまとめてあるものは側に置いておくで絶対によくてもその質問は臨機応変に対応してみてください！

●跡見でお話を聞いたことやホームページに記載されていることは確認程度にしたほうが良いです。

それでも予定時間よりかかってしまいました。でも納得いく取材と写真撮影にしてください！！

●奥村さんに、もう一度どのような写真を撮るのが説明してください！

●10月に原稿を送りすること、12月完成予定は中岡さんや広報の皆さんも気になっていたみたいなので、今後の予定は絶対に伝えて欲しいです！

●最後に、第一印象が大事です！エントランスとお部屋に入った時にハキハキすることも意識してください！（^^）

(竹下)

7/1 ポーラ 橋本彩音さん（美容コーチ）取材

◆事前に当日の流れのイメトレ！

挨拶（名刺渡す）→取材の流れ確認→録音することを伝える→取材始める→取材が終わったら今後の予定を伝える…などの大まかな流れを頭に入れてイメトレしておくで落ち着いて出来ると思います！

◆取材内容箇条書きしたものを手元に置く

→質問したもの、答えてもらったものに印をつける！！聞き忘れ防止になると思います！！

◆聞いて会話することに必死になると思うので、メモは簡単に！

◆録音絶対忘れないように！！

→メモはゆっくり書けないので、録音忘れたら大変😓💧

◆Visionsについては

- ・学生が作っていること
- ・毎年仕事テーマであること（今回はフェアリー ジャパン POLA のサポート活動について）
- ・在学生とオープンキャンパスなどで高校生に配布していること

・レイアウトが似ているページを見せてこのような形で掲載する予定です！ということ簡単に伝えれば十分だと思います！

◆事前に知っている情報があるなら参考にしつつその部分のどこを具体的に聞きたいのかを伝える！

「～というのを拝見したのですが～の部分についてより詳しく聞かせて頂きたいです」とか色々な言い方で工夫して答えやすいように！

◆目を見て話を聞く！！

→緊張すると思うけど、目を見て話していると相手の笑顔も増えるし、相手が笑顔だと自分の緊張もなくなっていきます！

◆相手の話を拾って会話していく

→自分が質問しようと思っていたことが先に話題に出てくることもあるので、焦らず出てきた話題から「今のお話にあった～～について」などと繋げていくとスムーズだと思います！

◆挨拶大事！第一印象は何よりも大切です！

ニコリ笑顔でハキハキと挨拶出来れば完璧です。

(増坂)



7/1

ポーラ 荻野和子さん（美容コーチ）取材

私の場合、及川社長の取材と少し時間が被ってしまっていたためカメラマンさんや他のスタッフなどがおらず、2人きりの状態で取材がスタートしました。そのため、結構緊張してたのですが、荻野さんが結構積極的に話してくださったり、逆に質問をしてくださったりしました。最初は緊張してごちなくなりますが中盤になる頃にはこっちからどんどん質問したり笑いが起きたりして楽しくなってくるので心配しすぎなくて大丈夫だと思います！また、ポーラの方同士仲良い感じがしたので会社の雰囲気などがとても良かったなと私は思いました！終わった後、また取材したいと思えるほど良い経験でした！

構積極的に話してくださったり、逆に質問をしてくださったりしました。最初は緊張してごちなくなりますが中盤になる頃にはこっちからどんどん質問したり笑いが起きたりして楽しくなってくるので心配しすぎなくて大丈夫だと思います！また、ポーラの方同士仲良い感じがしたので会社の雰囲気などがとても良かったなと私は思いました！終わった後、また取材したいと思えるほど良い経験でした！

○挨拶・自己紹介はしっかり！！

最初の挨拶で自分がどのような人なのかを相手は判断すると思うので大事です！！明るく元気よくすれば大丈夫です！

○『Visions』についての説明

荻野さんは『Visions』はどんなものなのか結構見えて、持っていた『Visions』を参考にどうやって答えようか決めてくださっていました！

○メモを取ることに集中しすぎない

お話をしっかり聞くことで、さらなる質問などをするとより詳しく知れることが多々あったため、メモをすることも大事ではありますが、目を見て相槌をしながら話を聞くことが大事だと思いました。

○元々ある資料に書いてあることは確認程度に

元々ある資料に書いてあったことは改めて聞くのではなく確認程度にするといいと思いました！私の場合、配属部署がその資料と今では異なっていたので確認してよかったと思いました！

○外部の仕事について

荻野さんの場合外部でも自ら取り組んでいることがあり、それが仕事にもつながっていることなどがたくさんあったのでそういうのも聞くと周りとの差別化ができると思いました！

○手元に取材内容の紙を置いておく

手元に取材内容の紙を置き、聞いた質問は印をつけるなどすると聞いてないところが明確になり質問し忘れを防ぐことができます！（佐々木）



7/1

ポーラ 池田美穂子さん（美容コーチ）取材

取材をするという経験がなく初めてだったのと、実際に企業に行くという緊張感がとてもありました。ですが、対応して下さった方々はとても優しく世間話なども混ぜながら案内などして下さったおかげで途中から楽しく取材をすることができました！なのでこれから行く方はあまりかしこまりすぎず、お話を楽しむ気持ちで行くのがいいのではないかと思います。

取材をするという経験がなく初めてだったのと、実際に企業に行くという緊張感がとてもありました。ですが、対応して下さった方々はとても優しく世間話なども混ぜながら案内などして下さったおかげで途中から楽しく取材をすることができました！なのでこれから行く方はあまりかしこまりすぎず、お話を楽しむ気持ちで行くのいいのではないかと思います。

○目を見て話を聞く・会話を心がける

当たり前のことかもしれませんが、相手の方も取材に対する回答を丁寧に考えてきてくださっていたので、こちらがメモをとるのに必死になってしまうとどうしてもコミュニケーションをとるのが難しくなってしまうため、メモは要点のみで基本は目を見て、回答に対する感想を言うようにしていました！それにより、話を更に広げてくださったように思います！

○取材内容の順番をしっかり整理しておく

私は取材内容の紙に書いてある質問内容の順番が前後してしまっているところがあったため、上から質問していく中で時系列がおかしくなってしまった所がありました。取材内容をしっかり頭にいれて臨機応変に対応できたらそれが一番ではありますが、緊張してしまうこともあると思うので、まずは、取材内容の順番を前もってしっかり紙に整理しておくといいと思います！

○ボイスメモ（録音）の確認・その際のスマホの確認

私はボイスメモをタブレット（でかいですが、...）とスマホの2台でしました！途中でスマホのアラームが音はないもののパイプ音で鳴ってしまいました…。話を遮ってしまったのが本当に申し訳なく思いました。ボイスメモをスマホでする方も多いと思うので、スマホの通知音がならないようにするなど確認しておくのと、可能であれば途中で途切れてしまった時のために2台体制で録音するのがいいのではないかと思います！

○笑顔

私が担当させていただいた池田さんはとても穏やかで笑顔でお話をしてくださる方だったため、真剣な顔になりすぎず、こちらも笑顔が心がけました。それにより、穏やかな雰囲気での取材ができたように思います！相手の方のテンションにもよりますが、笑顔で相手の方との温度感を合わせていくことが大事なように思いました！

(藤川)

11

レイアウト回しの準備 [7/8、7/15]

- サムネイルの作成 ○見出し、リード、小見出しを書く。
- 画像の整理。



7/8
今日はレイアウト回しの準備を行った。以前のVisionsを参考にしながら構成を考えたが、想像以上に文字数が少なく、情報の取捨選択が大事だと思った。デザイン事務所訪問までに全体像が分かるように詰めていきたい。
(小野寺)

7/15
デザイン事務所訪問に向けてのサムネイルの確認と、巻頭コラムの内容打ち合わせを行った。サムネイル確認はどのグループも苦戦している様子が伺えた。時間が無い中で、完成形まで持っていかねばいけなため頑張らないといけないと感じた。巻頭コラムの打ち合わせでは、巻頭コラムの方向性がやっと固まった様感じた。まだ取材に行けていないという焦りと、これから取材が待ち受けている緊張があるが、全員で協力していいページを作れるように頑張りたい。
(黒岩)

私が担当したページは、1ページに複数人紹介するため伝えたい情報が多く、見やすいサムネイルづくりに苦戦しました。実際に、最初はかなり欲張ったサムネイルでしたが、約7回修正を重ねて完成させました。ですが、「紹介するお二人は、2ショットで撮影した写真を使いたい!」というこだわりは変えずに形にできました。
(小林)



12

レイアウト回し [7/22]

- 岡本一宣デザイン事務所に伺い、サムネイル、見出しなどのテキスト、画像をお渡ししてレイアウトを依頼。



それぞれのページごと、私たちはレイアウト回しのための準備を進め、岡本デザイン事務所へと足を踏み入れました。プロとして活躍されるデザイナーの方々との対面に、私は緊張しながらも、胸の高鳴りを感じていました。他の学生たちとデザイナーの方々との話を聞きながら、自分含め全員の準備不足を実感しました。私はデザイナーさんとのパイプ役を担いました。デザイナーさんの名刺をいただき、たくさんのやり取りを通して、学生気分から一緒に仕事に取り組む1人としての意識へと変わったように思います。デザイン修正依頼の連絡係として、たくさんの要望や生徒たちの意見をまとめるのはとても大変でしたが、自分含め学生一同学び多き経験を経て、成長を感じることができました。
(川原)



13

原稿執筆 [9～10月]

- 決められた文字数の中で情報を取捨選択し、読者にわかりやすい原稿を書く。
- 事実関係に誤りがないか取材先に確認。
- 何度も書き直しをして原稿を完成させる。

10/7
取材でお世話になった方々に原稿確認のためのメール送信、確認依頼のメール文章の作成を行った。また、原稿で不安がある箇所は元永先生のアドバイスももらい、字数の確認や文の直しを行なった。それぞれ原稿の完成版に向けてグループで何度も話し合いながら取り組んだ。残りの限られた時間でまだまだやるものがたくさんあるが、みんなで助け合いながら『Visions』をより良いものにしていきたい。
(長沼)

初めての原稿執筆は想像以上に難しく、30分以上の取材内容を限られた文字数に収めることに苦戦しました。最初は取材内容を詰め込みすぎてまとまりのない文章になり、言い回しや構成について先生から厳しい指導を受けました。泣きそうになりながら何度も書き直し、7回ほど修正を重ねた末に、ようやく納得のいく原稿を完成させることができました。その時の達成感はいくらも忘れられない大切な思い出になると思います。
(藤川)



私は何度も何度も原稿の訂正し、先生とのやりとりは5回にも及びました。どのように文章を構成すれば、限られた文字数の中で取材相手独自の良さを分かりやすく読者に伝えることができるのかということを最優先に考え推敲を重ねました。一番苦労した点は自身の語彙力の低さにより何度も同じ言葉を文章中で使ってしまうことでした。自分の伝えたいことを他の言い方で考えたり先生に教えをもらい、より納得のいく原稿になりました。
(若月)

14 入稿と印刷工程のレクチャー [9/30]

- 『Visions』の印刷をお願いする千代田プリントメディアの早乙女和弘さん、横溝彩萌さんにお越しいただき、入稿方法と印刷工程について教えていただく。



9/30
『Visions』を印刷して下さる千代田プリントメディアさんによる入稿と印刷のレクチャーを受けた。今回の授業で特に印象的だったのは、印刷物をルーペで拡大すると網点のはっきりと見えたことである。様々な色をシアン、マゼンダ、イエロー、ブラックだけで表現できることに驚き、印刷の技術に感心した。パソコンなどの大画面で見ると写真などの画質が悪くなるのはこういった理由なんだと気づいた。雑誌の仕様や印刷の基礎知識など細かく教わることができたため、一つまた詳しくなった気分で嬉しかった。秋学期初のVisionsで緊張もありましたが、あと半年間駆け抜けていきたいと思う。原稿の締め切りも迫って、大変だけど頑張ろう!

(滝下)

15 入稿準備・入稿 [10/7～10/21]

- 割付（デザイン）と原稿に合番を付ける。
- 見出しやデザインに修正があれば、デザイナーに修正を依頼。
- 入稿サーバーに原稿を入れる。
- 本割付と原稿を印刷会社に持っていき、不備がないか確認を受ける。



10/14
千代田プリントメディアさんへの入稿の準備として、合番入れや原稿修正を行なった。また、デザインの確認と修正依頼を行なった。『Visions』入稿への第一歩であり、みんなも必死に入稿準備を進めた。分からないことだらけで、テンパりまくりで授業中に終わらない班がほとんどだったが、どうにか気合いで終わらせることができた。次回の入稿に向けて気合いを入れていきたい。

(本田)

10/21
千代田プリントメディアを訪問し入稿した。千代田プリントメディアさんでは3の方が対応してくださいました。その対応が早く丁寧でスムーズに進められたことに驚いた。大きな問題もなく、想像以上に順調に進行できて安心した。次回もこの流れで進められるよう、引き続き丁寧な準備を心がけたい。今後も細かいところに気をつけて完成度を高めていきたい。

(横島)



16 初校～初校戻し [11/4、11/11、11/18]

- 校正の方法を学ぶ。
- 取材先に確認依頼メールを送信し、修正を初校に反映する。
- プロの校正者、みね工房の平野海さんに校正を依頼。校正者の赤を反映する。
- デザインの修正が必要な部分は、デザイナーに修正の依頼を行う。



11/4
初校正。各グループで集合し、自分達の関わったページに目を通し赤ペンを入れていく。他グループのページにも目を通し、互いに気になる点や校正方法を聞いたり教えたりした。修正の入れ方にも色々やり方があったが、結果としては「修正点が分かりやすい」ことが最も大切と先生からアドバイスが。間違いや自分の目で見て感じた疑問点をグループメンバーと相談しながら、ひたすらに赤を入れる作業は緊張感があったと思う。本誌の完成に向け、ラストスパートがかかっている。まだ気を抜かずにいきたい。

(I.C.)



11/11
校正者の方から返ってきた校正で自分が気づけていなかった誤字脱字や矛盾がまだ沢山あったことに驚きました。また、自分の確認不足を痛感しました。私が担当している表4のみんなのコメントも直すところが沢山あって大変でしたが、雑誌制作に携わっている実感を強く感じた時間でした。

(伊藤)

11/18
今日は千代田プリントメディア様へ伺って初校戻しを行った。前回同様優しく教えて頂いた事もあり、スムーズに作業が行われたように感じた。初めての校正だったこともあり、伝わるかどうか緊張したが漏れなく伝わった様で一安心。Visionsがかなり完成に近付いていることを改めて実感したのでより一層気を引き締めて作業に取り掛かろうと思った。

(内山)

17 再校～校了 [11/25、12/2、12/9]

- 初校の赤字が修正されているか確認。
- 校了に向けて最終の校正。
- デザインの修正依頼。



11/25
今日は最後のデザイン修正と再校を行った。ひとつのミスもないよう、全員が集中して確認と修正を行っていた。春から目まぐるしく制作してきた Visions の完成まであと一歩となり、「本当に完成するんだ」という達成感と、少しの寂しさを感じた。雑誌として、世間に出て恥ずかしくないものを作れるよう最後まで気を引き締めて頑張りたい。
(小野寺)



12/9
Visions、校了しました！千代田プリントメディア様に訪問し、校了紙を渡しました。3度目の訪問ですが、最終確認ということもあり、いつも以上に緊張した空気が走っていました。雑誌の完成が近づき、緊張とともに、達成感を感じました。
(滝下)

自分が作成した文章と何度も向き合って書き直すことはとても難しかったです。最後の最後までどの表現がベストなものなのかを考え、取材時に伺った言葉だけでなく、感じた雰囲気などもその都度思い出しながら試行錯誤し、再校でも最終の原稿修正をしました。言葉と向き合う良い機会になりました。
(山本)



18 印刷所立ち合い [12/16]

○千代田プリントメディア 越谷工場で印刷立ち合い。



12/16
千代田プリントメディア越谷工場に行き、実際にVisionsが印刷されているところを見学しました。実際に印刷されているところを生で見ることができ、また、印刷所の方々が丁寧に教えてくださり、知らなかったことが知れて貴重な経験でした。初めてのことでとてもドキドキ、ワクワクしました。
(長沼)



19 完成～お礼状と掲載誌送付 [12/23]



12/23
ついに『Visions vol.14』が完成！今までデザインは何度も見てきたはずなのに製本した状態は「初めて見た」みたいにごく新鮮でした。先輩たちが言っていた「手に取った時の感動」ってこれのことなんだと実感しました。早くたくさんの人に見てもらいたいです！
(本田)



広報活動

今年度の新しい試みとして広報部をつくり、広報活動を行った。

A

SNS [4月～1月]

○InstagramとXの運用



今年度から新たな試みとして、SNS アカウントを開設しました。4月にInstagram 運営チームとX 運営チームを作り、週に一回の定期報告と、説明会などイベントの告知を行いました。SNS 運用で身に付いた力は、2つあります。1つ目はPR力です。『Visions』を知らない人に伝えるためにはどうすればいいか。文字数や写真数の制約がある中でより魅力的にみせる工夫を学びました。2つ目はチームワークです。講義内だけでなく、グループLINE でお互いの文章を添削したり、自主的に投稿を担当するなど一人ひとりが積極的に活動しました。その他にも担当のメンバーが投稿するのが難しい場合は他のメンバーが代行するなど助け合いながら1年間活動を行いました。

(本田)

B

母校訪問 [夏休み]

- 自分が卒業した高校に『Visions』を10冊ずつ持っていく。
- 大学での学生生活や自分の活動を恩師に伝える。



夏休み中に Visions の宣伝を兼ねて高校へ母校訪問に行ってきました！当時お世話になった先生に、今自分が大学で勉強していることや頑張っていることを報告し、高校の時よりも成長した姿をお見せすることが出来ました。また、受験生である後輩とも話すことができ、「跡見学園女子大学では授業を通して自分の“好き”をとことん追求できること、現代文化表現学科では『Visions』という雑誌の製作に携われる授業があること」など、大学の魅力を存分に伝えてきました！完成を楽しみにしてくれていた『Visions』14号が出来上がった際には実物を持っていけたらと思います♪ (中島)

C

オープンキャンパス [8/4]

- オープンキャンパスでワークショップを実施。
- 高校生とその保護者が、履修生に取材し、『Visions』のポスターを制作。



8月4日。オープンキャンパスの探究ワークショップで、高校生とその親御さんに『Visions』についての取材とポスター制作をしていただきました。私は『Visions』を編集した学生として、高校生の取材を受けました。『Visions』の魅力、経験したこと、感

じてきた想いを振り返り「どのような言葉なら伝えるか」「こう書いてもらいたい」と考えて答えました。取材をする立場から受ける立場になり、取材に対する理解がより深まった良い機会でした。

(小嶋)

D

紫祭 [10/26、10/27]

- 紫祭で Visions の制作過程がわかる展示を行う。
- 動画を作成し、会場となる教室で投影。
- 来場者に活動を説明。



10/24
文化祭「紫祭」の準備。椅子・机の移動/設置、PC・スクリーン動作確認、ポスタープリント・掲示、ボード記入、『Visions』バックナンバー設置を行う。事前に予想していた教室の広さや備品の数が違ったが、その場で臨機応変に形にすることができた。今まで準備してきた、だんだんブースとして形になっていく様子を見て、気合いを入れ直すことが出来たと思う。当日まであと少し、全力でかましたい。

(渡邊)

10/26

紫祭1日目。

思っていた以上に足を運んでくださる人が多くてやりがいを感じた。進んで質問してくださる人もいて説明のしがいがあった。時間が過ぎるのがあっという間に感じた。明日も引き続き Visions の魅力が伝わるよう頑張りたい。

(狩野)

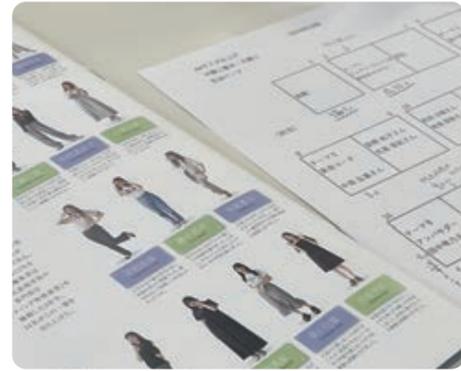
10/27

紫祭2日目。

2日目だったので展示の運営や Visions の説明にも慣れて1日目以上に『Visions』や私たちの取り組みについて来場者の方々に伝える事が出来たと思う。展示に興味を持ってくださる方が多くて嬉しかった。紫祭を機にSNSをフォローして下さった方も多く、お声がけした甲斐があったなと思った。

(沼倉)

私が見つけた力



人とかわかる力

取材や誌面作成でお世話になる企業の皆様だけでなく、同じチームとして活動するメンバーとのやりとりは必須。丁寧かつ緊張感を持って人に接する力をつけられたと思います。自分から社会人相手に連絡や声掛けをするというのは心にはしかかるものがありますが、少しでもそれに慣れることができるのではないのでしょうか。



常に改善を求め、挑戦し続ける力

どうすればより要領よく進められるか、どうすれば準備不足をなくせるか、常に自分の課題を見つけて改善策を考え続けることで、少しずつ成長できたと感じています。



多くの人に伝わる文章を考え、構成する力

文章を書くということがあまり得意ではなかったこともあり、たくさん悩みました。しかしその分学びや発見も多く、自分の成長に大きく繋がったのではないかなと思います。



考えてやり抜く力

戸惑うことばかりでしたが、とてもやりがいを感じて楽しかったです。この授業のおかげで分からないことばかりでも諦めず、最後まで考えやり抜く力を得ることができました。



責任感

私は、ポーラの方との取材日程のスケジュール調整を行ったことで責任感が身につきました。大事な取材の日程を全員分まとめて、取材を終えられた時は、安心しました。



たくさんの人と協力して作り上げる力

同じチームの人とはもちろん、多くの人の協力で完成した一冊。モノづくりの大変さと喜びを知りました。この充実感は決して一人では味わうことができないものでした。



人に伝える力

読み手が理解できる文章を作成する上で、相手目線に立つて考えることで、人に伝える文章を作ることができました。元永先生に沢山助けていただき、納得のいく文章になりました。



妥協ではなく納得のいくまで

最後まで、自分の納得のいくまでやり抜く。という経験を初めてしました。自分のことではなく、初めて会う取材相手の方を書くのはとても難しく、そして読み手に伝わるように考えるのはとても困難でした。ですが、完成したVisionsを見たら、頑張ってきたと幸せな気持ちになりました。



多様な視点で捉える力

制作者としての「伝えたい」と、読者の「知りたい」という思いのギャップを埋めるために、何度も視点を切り替えました。届けたい思いが形になった瞬間の喜びは格別です。



マルチタスクへの対応力

2つのチームを掛け持ち、多くのタスクが常にある状態で目まぐるしく頑張ってきました。胸を張って見てほしいと思えるページに出来たことで、自分の自信にも繋がりました。



細かい確認作業を怠らない力

小さなミスが命取りになってしまうので、気を張って隅々まで見ていました。何回も確認するので大変でしたが、出来上がった本を見て頑張ってきたと思えました。



責任感と臨機応変に丁寧に対応する力

社会人の方とのやりとりを臨機応変に、でも丁寧に行わなければならないという緊張感が成長に繋がりました。取材や校正の確認などの山を越えた時の達成感は忘れられません。



最後まで成し遂げる力

大きな達成感を感じています。最後の最後まで抜かりなく、自分たちのこだわり抜いたVisionsができあがったと思っています。ぜひ手に取ってほしいです。



計画力

もともとマイペースな性格でしたが、『Visions』で締め切りを意識する場面が多かったため、今はスケジュールを組むなどして、計画的に行動するようになりました。



どんな人にも伝える力

自分と違う世代や職業の人にも伝わる文章を作る力を培いました。堅い文章ばかり書いていましたが、親しみやすい文章が書けるようになりました。



計画と準備の大切さ

取材相手の入念な下準備や下調べが、当日の自分に自信を与えてくれました。プロの方と接するのはこれまでになく緊張したが、終わった後に達成感を得られるととてもいい機会でした。



チームワーク力

同じチームのみんなで毎週のように本文や校正チェックを行い、良い記事になるように協力していました。チーム一丸となって作り上げた記事は一生の宝物です。



責任感

世に出す物として、誤った情報を載せてはいけません。その責任の重さを常に感じていました。選手と強化本部長と直にお話させていただいた経験は、貴重なものになりました。



進行管理能力

担当する2つのページと、デザイン事務所との連絡係を同時に進行する中でこの力を培いました。メールチェックや、常に複数人と連絡を取りあうことの大変さを学びました。Visionsが印刷されているのを目の当たりにし、みんなの影の努力が見えるようで感慨深かったです！



自己規律と忍耐力

どうしたら伝わりやすい文章になるか、言いたいことは伝えられているか。これでいいのではなく、何度も何度も書き直して納得のいくものをつくりあげることが出来ました。



表現力

取材させていただいた佐藤さんの価値観に私自身とても感銘を受けました。取材で得た言葉だけでなく、佐藤さんの素敵な人柄が伝わるように言葉を取捨選択し、工夫しました。



限られた中で工夫し、的確に伝える表現力

文字制限の中で分かりやすく伝える経験は、この授業ならではの貴重な体験でした。何度も書き直したことで完成度を高め、達成感とともに表現力を磨くことができました。



問題解決力

限られた文字数で表現するのが大変でした。伝えたいことに対して文字数が足りず、何度も表現を変えて書き直しました。満足できるものを仕上げることができました。



スケジュール、時間を管理する力

常に期限のあるものやスケジュールを多く抱えていました。いつまでに何を終え、提出しなければいけないのか、自分の中で毎日整理をしながら管理していく力が身につきました。



臨機応変に対応する力

急速取材ができることになったため、元々考えていたコラム内容を早急に考え直しました。取材をしなければ書けない巻頭コラムのページを作り上げることができました。



何事にも真摯に向き合う姿勢

相手に誠実に向き合っ取材をしたり、それを責任を持って自分の言葉でまとめたり、他にも様々なプロの方々や仕事をする中で何事にも真摯に向き合う姿勢を学びました。



想いを形にする文章力の探求

話された言葉を自分の中で噛み砕き、伝えたいことを195文字に収める文章にすることが難しかったです。何度も修正を重ね、相手の想いを形にできたことに喜びを感じました。



早め早めの行動力

2つのページを掛けもちしていたため常に同時並行で進めなくては行けませんでした。イレギュラーが起きても対応できるよう余裕のある計画をたてることを意識しました。



忍耐力

何度も文章やデザインを変更したことが、精神的に疲れた作業でした。変えても直しがきて、心が折れかけたけれど、最後は綺麗なページとなりとても満足しています。





チーム Visions 2024

この冊子は、2024年度に
跡見学園女子大学文学部現代文化表現学科 ライティング特殊演習（編集）を履修した学生の
活動日誌をもとにつくりました。

担当教員／元永純代